

黒人研究の会会報

Japan Black Studies Association Newsletter No.67 (June 28, 2008)

第67号 2008年6月28日

例会発表要旨

12月例会 2007年12月8日 キャンパスプラザ京都

① ボーア戦争の表象: Olive SchreinerとSol Plaatjeを中心に

溝口 昭子

19世紀末、南アの「資本家の要求と一体となった大英帝国」対「アフリカーナー」の資源をめぐる争いは、ボーア戦争(1898-1902)へと発展した。その間、英国系南ア社会と英国における言説は、大体以下の2つである。「人種差別的で野蛮なボーア」との戦いとして捉え、大英帝国側の侵略を正当化する多数派の立場と「侵略者である帝国主義者／資本家と農民との戦い」と捉え、アフリカーナーの権利を擁護する少数派の立場。今回はその中で、アフリカーナーを支持した南アの白人女性作家Schreinerと大英帝国を支持したアフリカーナ男性作家Plaatjeのボーア戦争を巡る「反アパルトヘイト的」言説を論じる。Schreinerはアフリカーナーと非白人両方を、帝国主義／資本主義の侵略の犠牲者として描く。この矛盾は「急激に産業化する社会で収奪される非白人」以外の人々(白人社会に「昔から存在した」非白人の召使いや農業労働者等)を彼女が問題視せず、南アが戻るべき理想を、英

帝国の同化政策Cape Liberalismに見たことによる。一方、Plaatjeは「白人の戦争」とされるボーア戦争を、それに関わるアフリカ人の視点から描き、大英帝国を支持することでCape Liberalismに基づく人種間平等の実現を目指そうとする。しかし、2人が共に予測しえなかったのは、戦後、白人たちが団結しアパルトヘイト社会構築への道を歩んだことであった。

② 中国武漢における国際ラングストン・ヒューズ学会参加報告

木内 徹

この学会は、中国武漢の華中師範大学で、平成19年7月20日(金)から23日(月)まで行われた。中国は漢字の国なので、ラングストン・ヒューズは、「蘭斯顿・休ス」と表記し、この学会は中国語で、「蘭斯顿・休ス国際検討会議」と言う。この学会は、武漢理工大学教授・羅良功(ルオ・リャンゴン)を大会実行委員長として行われた。参加者は、アメリカから、現在ラングストン・ヒューズ学会会長であるDellita Martin-Ogunsola、アメリカ現代語協会(MLA)元会長・詩人のMarjorie Perloff、ヒューズ研究家のDonna Akiba Sullivan Harperなど、外国人が多数参加していた。

学会は、7月21日(土)から始まり、聶珍釗(ニエ・ジャンバオ)による大会開会宣言ののち開始され、研究発表は、すべて英語で行われ、総合テーマは「ラングストン・ヒューズ—その芸術と影響」であった。

一日目のシンポジウムは、西北師範大学副教授・張生庭とハーパーの共同司会で行われ、ノーガタック・ヴァレー公立短大准教授ウィリアム・フォースター、浙江教育学院・高偉の研究発表がおこなれた。

7月22日(日)午前中のシンポジウムでは、北京語言大学教授・寧一中とトレーシーの共同司会で、ドナ・ハーパー、羅良功、マーティン＝オグンシュラ、木内徹の発表であった。

午後には、2つのシンポジウムがあり、一つは、湖北大学教授・劉国枝とインディアナ大学講師のクリス・クリスラーの共同司会で、Michelle Rankins、西南科技大学副教授・黄開紅、上海外国語大学・王小玲の各発表が行われた。もう一つのシンポジウムは、浙江大学教授・譚惠娟と木内の共同司会によって行われ、クリスラー、マカレスター大学准教授・David Chioni Mooreの発表であった。大会の最後は、参加した詩人による詩の朗読会が行われ、十名以上の中国詩人による朗読、さらに、外国からの参加者による詩の朗読でこの会は締めくくられた。

1月例会 2007年1月26日 神戸市外国語大学

① 植民地ケニアにおける女性割礼論争再考—「女性健康保護」言説と文化植民地主義

額田康子

女性割礼は、1970年代に西洋のフェミニストが割礼の際に行われる外科手術を「女性性器切除」(female genital mutilation)とよび、人権侵害であると位置づけて以来、論議をかもしてきた。最近ではさまざまな角度から議論が行われているが、今回は植民地ケニアにおける女性割礼論争に焦点を当て、「普遍的人権論」と「文化相対主義」という二分論を批判してみたい。1920年代末、スコットランド伝道教会をはじめとして、プロテスタント教会の信徒に女性割礼が禁止された。この禁止はとりわけゲコヨ人に大きな抵抗運動を生み出した。彼ら、彼女らの間に喚起された「文化ナショナリズム」は、「マウマウ」とよばれた独立運動に大きなインパクトを与えたといわれている。抵抗の思想的支柱であったケニヤッタは現代の女性割礼論争のなかで「文化相対主義者」の先駆けと位置づけられ、宣教師の禁止理由は「女性の健康保護」という「普遍的人権論」であったとされているが、本当にそうだろうか。禁止キャンペーンを繰り広げた宣教師たちの議論とケニヤッタをはじめ抵抗運動を行った人々の思想を検証しながら、この問題が歴史的な文脈において、人種序列をもとにした植民地支配をめぐる対立であったことを明らかにする。

② Alice Walkerの描く暴力を超えた世界—Now Is the Time to Open Your Heartを中心に—

光森 幸子

2004年に出版されたNow Is the Time to Open Your HeartはAlice Walkerの第7作目の長編である。この物語の主人公であるカリフォルニア州に住む57歳の女性Kateは、作家として既に成功し、また多くの男性や女性と過去に結婚体験を持つ。Walkerは実在した彼女の父方の祖母、Kate Nelsonの名を主人公に授け、父の幼少時代に殺された為、出会いは叶わなかった彼女へのmemorialとしてこの小説を書いたとエピグラフで述べている。

Kateは人生経験豊富な、偏見の無い視点を持つ、ある程度完成された人物として設定されている。また、Kateの現在のパートナーである年下の画家Yoloも、Walkerの前作品に多く見られるような父権制に囚われ、人種差別の中で家庭を崩壊させるような破滅型の男

性ではなく、Feminismを理解し、人生の本質をキャンパスに描こうとするあまり欠点のない人物である。

しかし、Walkerは一見安定して見えるこの二人に、構築してきた人生の基盤を揺るがすような課題に直面させる。Kateの場合は、「老い」を受容した上で如何に意味ある人生を今後生きるのか自己探求させる。そしてYoloにも、Consumption Cultureに翻弄される自身を省察させ、命の繋がり・責任を学ぶ体験をさせるのである。

二人の人生の課題を解決する糸口は「水」にあると考えられる。この小説は徹頭徹尾、川・雨・涙・海というように水で満たされている。Kateの「乾いた川」の夢に始まり、コロラド川の急流下り、そして出会う女性達の傍には寝ても醒めても川が在る。アマゾンの熱帯多雨林の旅もそうである。参加者の男女5人は、それぞれ違う小屋に住むが、常に川の見える場所に暮らし、薬草水を飲み、身体を浄化し内省するようshaman達に導かれる。また、Yoloの夢も水に結び付く。彼はHawaiiでの休暇中、先住民のMahusやkahuna、仲間達に出会い、海の傍で彼等の話に耳を傾ける。これによりWalkerは、地球の20億年以上前からの同じ水の循環が人々の過去・現在・未来を結び付けていること、また人間同士のみならず全ての生命の連関・共存を可能にしていることを描写し、現代社会の様々な問題を解決する糸口を示唆している。

また現代社会の暴力性が齎す様々な苦悩や自己喪失感という問題を取り上げ、痛みの語りを共有し、互いに心を開くことで高め合える「人々の輪」の齎すエネルギーの可能性を普遍化している。つまり、Walkerが70年代にMeridianに結実させた「Civil Rights Movementの精神」、The Color Purpleで80年代に打ち立てた「Shugの福音」は継続して作品の基底に流れsameでありながら、更に高次元にchangingしている作品だといえる。

本発表では、「今こそ心を開く時なのだ」と読者に呼びかける為に、Walkerが如何にMagic Realismの中にcosmologyを創造し、新しいmovementを興そうとしているのかを考察した。

4月例会 2008年4月26日 キャンパスプラザ京都

① 赤ずきんちゃん気をつけて—Toni Morrison, Tar Babyにおける女どうしの絆

鵜殿えりか

トニ・モリスンの『タールベイビー』(1981)に様々な民話・神話・物語が織り込まれていることは、すでに多くの論者の指摘するところである。中でもタイトルにも使われているタールベイビーの民話は、当然この小説の物語枠組みを構成していると考えられてきた。しかし、この小説にはもっと複雑な意匠がある。本発表では、この小説が「赤ずきん」の民話を物語枠組みとしているのではないかと論じた。

この小説は、サンとジェイディーンを中心とするプロットと、ヴァレリアンとマーガレットを中心とするプロットという二つの枠組みに大別される。それぞれのプロットで、登場人物が狼と赤ずきんの関係を構成すること、しかし、最後にはその役割が逆転することを検証した。また、ジェイディーンとサンの恋愛物語と見えるものこそが「タールベイビー」であって、この小説は、隠されているジェイディーンとテレーズの女どうしの絆を描きだそうとしているのではないかと論じた。

② 植民地ケニアにおける女性割礼論争再考—「女性の健康保護」言説と文化植民地主義

大池 真知子

ガーナの女性作家、アマ・ダーコ(Amma Darko)による『花なしでなく』(Not without Flowers, 2007)を分析した。ダーコは中堅の半職業作家で、地元の読者を意識して大衆小説の趣向も取り入れながら、地元の出版社から出版している。小説では、登場人物がさまざまな形で——一夫多妻、浮気、「援助交際」、中年女性とツバメなど——性関係を営むなか、HIV感染の危機にさらされる。本発表では、小説の背景となっている1990年代以降、グローバル化が進み、見えない力に支配されているという不安感を人々が抱いていることを指摘したうえで、その不安感が、親密な性関係がウィルスに侵される不安として表象されていると分析した。そこでは、従来 of 女性文学が訴えてきた一方的な男性支配ではなく、女と男が力の交渉をしながら、女らしさ、男らしさを実践し、社会のイデオロギーを遂行し、身体化していく。以上の分析により、本発表は『花なしでなく』を二つの点で評価できると結論づけた。一つはエイズ小説として評価した場合、人を一夫多妻や売買春といった行動に向かわせるジェンダー・イデオロギーをあぶりだしたことにより、問われるべきは個人の心がけでなく、社会の力関係だとしたという点。もう一つは第二期の女性文学として評価した場合、セクシュアリティの問題を社会的な広がりをもって表象したという点である。

5月例会 2008年5月24日 神戸市外国語大学

①「紹介：キャロル・フィリップスの人と作品」

加藤恒彦

Carol Phillipsを6月特別例会に招待することの前段として、2008年3月発刊の拙著『キャロル・フィリップスの世界』について、報告させていただいた。

報告では、拙著の執筆に至った黒人文学へのかかわりと、その問題意識の展開、とりわけブラック・ブリティッシュ文学という文脈において位置づけることの意味や、フィリップス自身のブラックとしてのアイデンティティの形成過程、そのなかでのヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史的体験からの学びや彼自身のアメリカでの人種主義体験や黒人文学との出会いの重要性、そして奴隷貿易と奴隷制度の時代に生きた黒人像の追求に彼の小説家としての独自の世界の創造に向かう必然性、その特徴などについて論じた。

会員からの投稿

黒人男性か 白人女性か・・・米大統領の民主党予備選

須田 稔

「RAWAと連帯する会」から「ZINDABAD DEMOCRACY」と言う機関紙第8号が2月26日に送られてきた。アフガニスタン人民を支援する団体の一つなのだが、いつ加入したのか、いつからカンパを送ったのか、さっぱり覚えていない。

「編集後記」に注目した。アメリカ大統領選挙の予備選で、民主党はクリントンとオバマが鎬を削っている。この筆者は女性。「フェミニストとしては当然、女性の味方。でも一方、人種差別撤廃を願う者かつアフリカ大好き人間としては、アフリカ系アメリカ人にも頑張ってほしいし、どうしましょう」と書いた後、ある新聞記事で「黒人の方が女性より先に参政権を

得たから、順番から言えば黒人大統領誕生の方が先だ」とあるので歴史を調べたというのですね。ここが偉いところですね。

「アメリカでは、黒人は1870年に、女性は1920年に参政権を獲得した」と言ってすませるのは、しかし、あさはかで、危険です。

アフリカ系アメリカ人の参政権を巡る歴史をもう少し詳しく見ておきましょう。権利を現実に行使出来るには100年ほどの闘いが必要だったのです。

南北戦争中の1863年に、リンカン大統領は「奴隷解放令」を出しました。彼が暗殺された1865年に、憲法修正第13条が成立して奴隷制度廃止が決まりました。翌66年3月14日、公民権法が成立。首都コロンビア特別区の黒人男性に投票権を付与することも上下両院で12月に承認されましたが、ワシントンの白人有権者は賛成35対反対6591。1868年12月、憲法修正第14条が成立、黒人に公民権付与。1870年、憲法修正第15条が成立、黒人の選挙権付与、公民権法も成立。同年5月31日と翌年2月28日の「施行法」で、市民の投票を妨害する目的の実力行使や脅迫には罰金刑または拘禁刑を科すとし、大統領も、修正第15条の実施に軍隊を出動させる権限を認められました。南部政界に史上初の黒人進出、連邦議会にも議席を占め、1875年公民権法は、州や年が主導した、交通機関・劇場・ホテルなどの黒人にたいするハンディキャップの排除を保証しました。

しかし、多数派白人の巻き返しが始まったのですね。1883年の共和党が牛耳る連邦最高裁は、1875年の公民権法に違憲判決、この反動的潮流の中、89年頃から黒人に対するリンチが激化、1896年には連邦最高裁は「隔離しても平等」なら差別ではないと、人種差別を合憲として容認したのです。こうして再び、アフリカ系アメリカ人の冬の時代が半世紀ほど続きました。

1944年、連邦最高裁は正当の予備選挙から黒人を排除するのは違憲と判決。1948年、トルーマン大統領は行政命令第9981号で軍隊内の人種隔離の禁止を命令。1954年5月17日、連邦最高裁は9人全員一致で学校の人種隔離は違憲と判決。このことを機に、神戸市立外国語大学で「黒人研究会」が創立されました。わたしは、1965年からの会員です。

1964年、憲法修正第24条は国政選挙に関する規制を禁止し、強力で包括的な公民権法も成立。翌65年、黒人の投票権を強化する公民権法が成立、キング牧師が暗殺された1968年、住宅差別を禁止する公民権法が成立。

女性の参政権を承認したのは1920年の憲法修正第19条。1940年、60歳のジャネット・ランキンが女性初の国会議員に。彼女は41年、対日宣戦決議に唯一人反対投票。
(立命館大学名誉教授)

「特権的エリート層の上澄みにいる2人」の候補者から・・選ぶむなしさ

須田 稔

これは、2004年の大統領選挙にさいしてノーム・チョムスキーが書いたことば。(『お節介なアメリカ』ちくま新書・2007/9)

民主党の予備選で、USAトゥデーとギャラップの世論調査によると、2月24日の時点で、支持率はオバマ51%、クリントン39%。去年12月以来の支持率推移をグラフで示す『毎日』2月28日付は、2月5日のスーパーチューズデー後の2日間だけで、オバマは760万ドル＝約8億1300万円もの寄付金を集めた、と報道。オバマ陣営は寄付者100万人と公表。

「変化をめざす運動 our movement for change」で「草の根からの参加 grassroots participation」がかつてなく必要、と訴えている。この限りでは、オバマに声援を送っても良い。しかし、眩惑されてはいけない。

2月24日付『毎日』は、小倉孝保記者のインタビュー記事を掲載。相手は、歴史学博士で、キング牧師と公民権運動・ヴェトナム反戦運動をともに闘い、アトランタのキング牧師記念館初代所長を務めたヴィンセント・ハーディング氏。「弱者の痛みを注意を払わない傲慢な者が権力中枢を占める事には反対、と考える層の、オバマ氏はシンボリック的存在。支持者にとってオバマ氏は新しいアメリカの創造者なのだ」。「彼の躍進を見るにつけ、アメリカ社会に大きな変化が起きていることを実感する」。「キング牧師が生きていたら、オバマ氏の躍進に自分が夢見た社会が到来しつつあると考えるだろう」。「歴史を見れば、此の国の過去が暴力の連鎖であったことが解る。オバマ氏にも暗殺などの危険はある」。

翌2月26日の『しんぶん赤旗』は、歴史家・作家のハワード・ジン氏の雑誌『プログレッシブ』上の論説を紹介。「社会全体を飲み込んでいる選挙の熱狂から解放される必要がある」。「進歩的・左翼的な人たちが、テレビに釘付けになって民主党の候補者選びに注目し、催眠術にかかっている」。「民主党の両候補とも、イラク戦争をすぐに終わらせるとも、医療の無料化制度を実現するとも言っていない」。「完全雇用実現・最低限の所得保障・住宅の確保のほか、軍事費の大幅削減・税制の抜本改革なども提案していない」。「11月の

選挙で民主党が勝利しても、貪欲な資本主義と軍国主義という双子の根深い病理からこの国が抜け出すきっかけにすらならない」。

同紙は、此の記事のとなりに、消費者運動家で過去4回の大統領選挙に出馬したラルフ・ネーダー氏第3党から立候補すると24日正式に表明、と報じた。

出馬の理由は、①世論調査で61%の国民が、民主・共和の両党は役割を果たしていない、と回答している。②多くの国民と59%の医師が賛成するシングルペイヤー制度(国が責任を持つ単一支払い制度で、保険会社に医療保険を支配させない制度)に両党各候補は反対していること。③肥大化した軍事予算について、国防総省の無駄遣いを人びとは支持していない。民主・共和の各候補は軍事費問題を棚上げしている。

そして、ネーダー氏は、「西欧やカナダのような多様で複数の選択肢のある複数政党の民主主義をつくろう」と訴えている。

ブッシュの共和党後継者マッケインと比べれば、民主党のほうが、クリントンと比べればオバマのほうが、ましだろうが、ハワード・ジン氏やラルフ・ネーダー氏の主張が、従属的同盟国の日本の人民にとっても世界の戦争拒否・人民の福祉を切望する圧倒的多数の庶民にとっても、一番魅力あるものではないだろうか。

「アメリカは常に様々な国をならず者国家として非難するが、多くの国々から見れば、彼らの社会にとって、アメリカこそがならず者超大国、・・・唯一にして最大の外的脅威となりつつある」(サミュエル・ハンチントンの1999年の言)。

(立命館大学名誉教授)

この人の存在を、知っていましたか

須田 稔

TIME誌3月10日号に肖像写真付きの訃報記事で、Johnnie Carrという名の女性が載っていた。享年97歳。

「この公民権活動家を、鑽仰者は“偶像的存在”、“運動の指導者で鼓舞者”、“理想的母親像”などと呼んでいた。あのローザ・パークスの幼な友達で、アラバマ州モントゴメリーの公共交通機関の人種隔離を廃絶させたバス・ボイコット闘争を切り盛りするのに尽力した。「歴史を創り変える」ことなど、彼女の念頭にはなかった。「わたしが考えていたのは、日常の有様と差別のこと」と語ったことがある。マーティン・ルーサー・キング牧師の跡継ぎとしてモントゴメリー改良協会の会長を務めた。バスボイコット闘争中は、カープール(car pool)

を組織したし、白人独占のモンゴメリー学校制度の中、息子を法律を問うテスト・ケースとして在籍させたこともある。」

以上が記事の全文だ。初めて見る名前の人。A Journey in 365 Days of BLACK HISTORY 2006 Calendarにも、The Chronological History of the Negro in America(A MENTOR BOOK, 1969)にも記載されていない。キング牧師関係の数冊にも言及されていない。どなたか、ジョニー・カーが登場する書物をご存じのかた、教えて下さいませんか。

TIME誌も捨てたもんじゃない、という感想だ。あの1年有余に及ぶ大闘争は、キング牧師とローザ・パークスが端緒を開いたのだが、不屈に続けたのは、そして勝利をもたらしたのは、黒人勤労大衆だった。当時のモンゴメリーの黒人人口は5万にを超えた。バス利用者の75%が黒人であった。自家用車をもつ黒人たちは、カープールに登録して乗りあつた人びとをそれぞれの目的地に運んだ。1955年12月1日から翌56年12月21日までつづけた闘い、威圧や刑事罰などにも屈せず毅然と耐え抜いた闘い。正義・平等・自由への渴望が、いかに熾烈であったかを物語る。全国平均の家族所得は、1955年で、非白人2, 549ドル、白人4, 605ドル。56年で、非白人2, 628ドル、白人4, 993ドル。

統合参謀本部議長、国務長官、民主党の大統領候補を決める予備選挙で白人の元大統領夫人で上院議員と鎬を削る候補者、人口比で僅か10数%のアフリカ系アメリカ人の地位向上は近年めざましい。しかし、ハリケーン・カトリーナの災禍に象徴される人種的・階級的差別は歴然と存続している。戦争国家で国家テロの親玉と化したアメリカ、その忠僕日本のアメリカ研究者は、普通の勤労大衆の生活と草の根の運動の視点を必要としていると思うのだが、どうだろう？

(立命館大学名誉教授)

梅村成浩さんを偲んで

小林 信次郎

5月10日梅村さんのご夫人弘子さまから訃報がきた。成浩さんは4月20日に逝去され、近親者によると葬儀も終わったとの知らせで、啞然としてしまった。梅村さんは体格も立派なうえ、元気印そのもののような人物であった。そのうえ好きなビールをいくら飲んでも決して飲まれることはなかった。神戸外大のクラスメート榎木忠夫君と弔問した時、ご夫人が、心臓発作による急逝で、今でも急に帰ってくるような思いになるともらされるのも当然である。

梅村さんは大学では私の4年後輩であるが、生まれは1930年で、2年も先輩であった。大戦中の2年の差は大変なことであった。黒人研究会は同期生で1960年の入会である。それからかれこれ50年もたっているのに、不思議だが、梅村氏の思い出は入会当時の6

0年代の10年間に集中している。特に入会当時の梅村さんの存在は衝撃的でした。60年は梅村さんは神戸外大(貫名ゼミ)を卒業した年であるが、その新卒の年に黒人研究誌(NO.11)から3回にわけて、リチャード・ライト論を掲載したからである。私などは、赤松先生に誘われて入会したばかりで、ライトはその存在すら知らなかった。しかるに梅村さんはライトの戦前戦後の20年間にアメリカで刊行された6点の小説を読破して、ライトの思想の遍歴と評価を読み、「黒人問題の本質をえぐった文学作品としては、どういっても、まだこの(『アメリカの息子』)右に出るものはないのではなかろうか」と喝破するのであった。

それにしても梅村さんの英語力の非凡さは謎のままであった。ゼミの貫名先生がいくら懇切丁寧に指導されても本人にかなりの自力がなければ、ライトの原書を一冊読むことも不可能である。しかも戦時中、英語は使うどころか、教えることも禁じられた。その時代に中学生生活を過ごしたからなおさら不思議であった。

弘子夫人との話や航空学校の学友の情報で初めて知ったのだが、梅村さんは第二次世界大戦最中の1944年京都第二中学校から選ばれて長崎地方航空乗員養成所に転校した。この航空学校は万事海軍式に運営された。教科では英語が禁止どころか毎日教えられた。梅村さんは英語が得意で目立っていたとの同期生の述懐があった。戦後は国鉄の鉄道教習所に入った。これは全寮制の3年制の専門学校で、幹部職員の養成機関であったが、ここでも英語が目立ち、卒業後尼崎や神戸の用品庫に実務についても折柄の駐留軍との仕事の折衝で実用的な英語力もマスターしたと教えられた。

梅村さんは英語を専門的に勉強しようとして、56年(S.13年)思い立って26歳で神戸外大の2部英米学科に入学したが、宿直の時には勤務先にクラス仲間を誘って、ダルマストーブを囲んで語学の勉強をしたこともあったと榎木君は語っていた。梅村さんは、さながら語学の虫のような面があり、ライトの読破もできたのだと、今度やっと謎が解けたのであった。

梅村さんの英語力と同様にこの会への貢献も謎めいた面があった。1960-2008の48年間の会員生活の中で、注目を浴びたのは最初の15年間ではなかったろうか。’76年以後は節目の行事に元気な姿を見せられるのみで、たとえ例会等に出られても発言されることもほとんどなかった。

だがスタートは全く違っていた。先に述べたライト論での自らの視点を明示してから、例会発表、会誌の編集にタッチすると同時に、学祭等の講師にも加わる多忙さであった。63年には会誌の巻頭のエッセイに「4. S. 黒人解放運動の新しい展開」を発表してから、その後の5、6年間の60年代の会報の展望欄では毎号のように健筆をふるい、黒人研究誌の牽引的存在のような役割を担う趣さえ感じるほどのコミットぶりではあった。しかるに70年代に入ると水を引いたように会での活動はストップし、75年には愛蔵の逐次刊行物と

書籍を神戸外大の図書館に寄贈された。同図書館の誇る黒人文庫一部を構成する文献となっているが、特に60年代後半の欧米で出版された、英語によるブラック・スタディーズ関係の図書はほとんど網羅されている趣がある。

1975年(S.50年)11月18日付で受け入れられた梅村さんの寄贈図書は396冊(50万円相当)で、そのほとんどが洋書で和書はわずか5冊のみである。大量に寄贈された洋雑誌も今も収納されているが、図書のように簡単に検索できないので詳細は簡単には明らかにならないが、必要に応じて参照が可能であるとの由であった。いずれにしても33年後の今日も広く有効利用されているようだ。

07年(H7年)6月の第53回全国大会は梅村さん宅近くの京都で開かれたが、そのとき少し立ち話を交わしたが、それが最後のコンタクトになるとは夢にも思わなかった。貴重な蔵書を寄贈し、会での活動も早々と中止された理由は一度ゆっくり聞いてみたいと思っていたが、そのチャンスも突然無くなってしまった。

梅村さんはつねづね黒人研究会は日常生活と結びついたものでなければならぬと考え、発言もしていた。しかるに69年の大学紛争を境として黒人研究会の運営を考えると、梅村さんの理想とは違う方向へ向かいだしたと判断したのではなかろうか。本務の国鉄での仕事や組合活動とかに時間をとられて、本会への時間がとれなくなったのであろうか。アマ無線や登山とかの趣味に傾斜していったのだろうか。いろいろ思いを巡らすこともあったが、いずれそのうちにと逡巡しているうちに彼方へ旅立ってしまわれた。残念でならない。

(大阪工業大学名誉教授)

海外からの情報

アメリカの大学の「黒人研究」関連授業紹介

<黒人研究会>には、アメリカの大学で教壇に立っている会員がいます。そのなかの一人、大西雄一郎氏はミネソタ大学で歴史学の博士号を取得後、ニューヨークのコミュニティカレッジでの教員を経て、昨年より出身校・ミネソタ大学のアフリカン・アメリカ&アフリカ学部の助教授に就任しました。以下、大西会員から許可を得て、同学部で担当するBlack Internationalism をテーマとした授業のシラバスを紹介します。アメリカの大学で

現在進行中の授業の一例です。研究・教育関係者、そしてこれからアメリカの大学に留学しようと考えている人の参考になればと思い、全文を掲載します。

(文責・古

川 哲史)

UNIVERSITY OF MINNESOTA, TWIN CITIES

AFRO 3910: Black Internationalism (3 credits)

Blegan Hall 105, Tuesdays and Thursdays, 9:45am-11:00am

Professor Yuichiro Onishi

Office: Social Sciences Building Room 874

Phone: * * * * * /Email: * * * * *

Office Hours: Mondays, 10:00am-Noon and by appointment

Course Description

This course introduces the concept of Black internationalism as political vision and theory to unpack the dynamics of the Black Freedom Movement in the twentieth century. It is conceived as a study in Black radical thought, exploring how leading Black intellectual-activists—W. E. B. Du Bois, Aimé Césaire, George Padmore, Paul Robeson, and C. L. R. James (to name just a few)—responded to such world historic developments as European colonialism in Africa, the Americas, and Asia, U.S. imperial ascent and expansion, two World Wars and the Cold War, and African independence movements. An emphasis is on how these Black intellectual-activists, as well as leading contemporary scholars of Black radicalism have framed the study of race and nation, especially as it relates to a critique of colonialism and imperialism to engender new analytic, theoretical, and political possibilities. Of particular significance to this task of rendering visible the contours of Black internationalism is the close reading of both classics and most recent humanities literature. Conceived as a reading-intensive seminar, one of the course requirements is that students lead and facilitate class discussions in pairs or in groups of three. Students who are

interested in the international study of African American history, Black radicalism, and social movements are encouraged to take this course.

Required Texts

- 1 Aimé Césaire, *Discourse on Colonialism* (Monthly Review Press, 2000).
- 2 Nikhil Pal Singh, *Black Is a Country: Race and the Unfinished Struggle for Democracy* (Harvard University Press, 2004).
- 3 Penny M. Von Eschen, *Race Against Empire* (Cornell University Press, 1997).
- 4 Kevin K. Gaines, *American Africans in Ghana: The Black Expatriates and the Civil Rights Era* (University of North Carolina Press, 2005).
- 5 Afro 3910 Course Packet

Required Course Work

- Attendance & Participation (15%)
- Discussion Facilitation (Twice/15% each): Select two topics/weeks from the course schedule and sign up on the first day. Facilitators must work in pairs or groups of three to generate a list of questions that will be circulated in class.
- Two Critical Response Papers (15% each): During the week in which you facilitate a class discussion, you are required to submit a critical response paper (One page in length & single-spaced). This paper should engage with main arguments presented in the assigned readings. Also, you should identify particular concepts, terms, phrases, or sentences that enabled you to make acute theoretical and analytical advances. The paper should also consider exploring the connections between readings done in the previous weeks and analytical and intellectual concerns raised during the class discussions.
- Final Project—Eight-Page Critical Synthesis Essay (25%)

On Effective Reading

Throughout the semester, we will read assigned texts critically. As you engage with these texts, keep in mind that the best readers are not those

who can whip through an article at high speed; the best readers read recursively. *That is, they shuttle back and forth, browsing, skimming, and re-reading as necessary.* Use the following checklist to further hone your effective reading strategies:

- Highlight ideas and phrases that strike you as significant. But avoid excessive highlighting.
- Re-read difficult sections or flip back and skim an earlier section if you feel yourself getting lost.
- Summarize the content of the paragraph or section in a word or two alongside the margins. These notes will serve as reminders as you re-read sections.
- Keep a record of *mental shuttling* by writing comments or questions in the margins as you read.
- Make a note in the margin if a particular section or passage puzzles you. Make sure to ponder why you felt confused, annoyed, or affirmed by a particular passage/section.

Student Learning Outcomes

This course will guide students to become critical thinkers and confident writers. By the end of the semester, students will be able to:

- Think critically about how and why the political visions, interpretations, and strategies of Black radicalism and internationalism emerged in particular moments in twentieth century history;
- Understand key concepts and perspectives that are central to the study of Black radicalism and internationalism;
- Expand the scope of the African diaspora by studying how the ideas of diverse political actors in such places as Africa, the Caribbean, Europe, and the United States intersected;
- Cultivate a critique of the institution of citizenship in the United States

In addition, students will improve their skills in:

- Synthesize various texts by formulating a unified topic of discussion and analysis in presentations and written work;
- Derive deeper meanings from various texts to formulate an original, creative, and focused thesis statement;
- Communicate thoughts and perspectives of others, as well as unexpected connections and relationships in discussions, presentations, and written work;
- Hone sensitivities toward details and logical organization, both in their own writing and the work of others

Keys to Success

1. Come to class on time

Timely arrival is important for the following reasons. We need to respect peers' learning space; many arrive on time and come prepared to learn. Timely arrival helps create an enabling learning space for all. Finally, if you are late, you end up missing crucial information about upcoming readings, assignments, tests, extra credit opportunities, and changes to the course schedule.

Attendance Policy: You are expected to attend all class meetings. **If you miss three class periods, you will fail the course.** Also, remember that two instances of tardiness will count as one absence.

2. Always consult your syllabus (advise: don't misplace it)

Your syllabus is your guide to success. It outlines what you will learn and what you are expected to do. It contains information that you need to know to become a serious student. You turn to the syllabus to keep up with readings, hand in your assignments on time, and manage your overall workload. Make sure to consult it everyday.

3. Come to class prepared to learn and discuss assigned readings

You should always bring the assigned readings and other course materials to each class meeting so that you will be able to participate in discussions and small group activities. Your active participation

does matter. It helps create a dynamic learning space for you and your peers. Finally, be sure to take notes actively in class. You learn a great deal, in general, when you write.

4. Complete your assignments on time

Always hand in your work on time. Once you fall behind in class, you will end up rushing through the course materials just to catch up rather than completing the assignments with a kind of care and attention that you need to do well.

Keep in mind that the late assignment will lose a half letter grade each class it is late for two weeks. Thereafter, your assignment will be considered missing work, and you will receive a failing grade. You will need to complete all of the assignments to receive a passing grade. Any legitimate conflicts must be discussed and presented in writing in advance. Finally, I do not grant incompletes in this course.

5. Remain academically honest

All of the written assignments require that you consult assigned readings and required texts. Be sure to acknowledge the sources you consult. Be sure to complete coursework with fairness and honesty. Also, you will need to learn to paraphrase effectively. Paraphrasing is a very important skill that you will need to hone in order to become a successful student and writer (see below for useful tips). The University Student Conduct Code defines scholastic dishonesty as follows:

“SCHOLASTIC DISHONESTY: submission of false records of academic achievement; cheating on assignments or examinations; plagiarizing; altering, forging, or misusing a University academic record; taking, acquiring, or using test materials without faculty permission; acting

alone or in cooperation with another to falsify records or to obtain dishonestly grades, honors, awards, or professional endorsement. Within this course, a student responsible for scholastic dishonesty can be assigned a penalty up to an including an "F" or "N" for the course. If you have any questions regarding the expectations for a specific assignment or exam, ask.”

On Paraphrasing

It is not acceptable to use author’s words almost verbatim and change only an occasional word or two. When paraphrasing is acceptable, the original text is significantly recast.

Original: “In the postwar period, industrialization developed through the use of government subsidies and investment in basic infrastructure.”

Not Acceptable: Following World War II, industrialization developed through the use of government subsidies and investment in basic infrastructure.

Acceptable: Following World War II, government subsidies and infrastructural investments were the major factors in developing national industries.

Adopted from Dr. Patrick McNamara’s syllabus, University of Minnesota

You are guilty of plagiarizing if:

- You directly quote (or copy) a source without placing that material in quotation marks and acknowledging your source.
- You use information from a source, and only slightly alter words or phrases without acknowledging your source and placing quotation marks around direct “borrowings.” Please see “On Paraphrasing” for details.
- You use source’s arguments, evidence, main points and/or structure without acknowledging your source.
- You paraphrase someone else’s ideas without acknowledging your source.

- You use “facts” gathered by someone else’s research without acknowledging your source.
- Your ideas or method of analysis have been heavily influenced by someone else’s theories and you do not acknowledge your source.
- Someone else writes your paper or supplies your argument for you.
- You submit a paper obtained from a paper mill, a paper writing service, and on-line sources.
- You turn a paper in to more than one class without explicit (written) permission from all professors involved.

Course Resources

Student Writing Support: Located in 15 Nicholson Hall and 9 Appleby Hall (East Bank), it is an important source of support for you. Although many of the locations across the Twin Cities campus hold walk-in hours, in order to get the best writing help, Student Writing Support advises that you come well before the assignment is due. It offers both face-to-face and on-line consulting. For more information about hours, locations, and services, visit <http://writing.umn.edu/sws/>.

Partner: Throughout the semester, you will work with classmates in small groups to discuss and analyze common readings and develop strategies to facilitate class discussions. To make group work productive and meaningful, you will have to not only read the assigned materials but also generate a set of questions prior to the group meeting. Also, you will have to recognize the power of dialogue; it can enhance your comprehension of course materials in decisive and unexpected ways.

Instructor: My role is to be a resource for you if you have questions or need guidance as you prepare for discussion facilitation and writing assignments.

Important University Policies

Student Conduct: Instructors are responsible for maintaining order and a positive learning environment in the classroom. Students whose behavior is disruptive either to the instructor or to other students will be asked to leave.

Students whose behavior suggests the need for counseling or other assistance may be referred to their college office or University Counseling Services. Students whose behavior may violate the University Student Conduct Code may be referred to the Director of the University Counseling Office.

Accommodations for students with disabilities: It is University policy to provide, on a flexible and individualized basis, reasonable accommodations to students who have disabilities that may affect their ability to participate in course activities or to meet course requirements. Students with disabilities are encouraged to contact their instructors to discuss their individual needs for accommodations.

-
Sexual Harassment: University policy prohibits sexual harassment as defined in the University policy statement of 17 May 1984; copies of this statement are available in 419 Morrill Hall. Complaints about sexual harassment should be reported to the University Office of Equal Opportunity, 419 Morrill Hall.

Academic Workload Policy: For undergraduate courses, one credit is defined as equivalent to an average of three hours of learning effort per week (over a full semester) necessary for an average student to achieve an average grade in the course. For example, a student taking a three credit course that meets for three hours a week should expect to spend an additional six hours a week on coursework outside the classroom.

Definition of Grades

A – Achievement that is outstanding relative to the level necessary to meet course requirements.

B – Achievement that is significantly above the level necessary to meet course requirements.

C – Achievement that meets the course requirements in every respect.

D – Achievement that is worthy of credit even though it fails to meet fully the course requirements.

S – achievement that is satisfactory, which is equivalent to a C- or better
F (or N) – Represents failure (or no credit) and signifies that the work was either (1) completed but at a level of achievement that is not worthy of credit or (2) was not completed and there was no agreement between the instructor and the student that the student would be awarded an I (see also I).

I (Incomplete) – Assigned at the discretion of the instructor when, due to extraordinary circumstances, e.g., hospitalization, a student is prevented from completing the work of the course on time. Requires a written agreement between instructor and student.

Grading Rubric for Writing Assignments

- Argument: The paper presents the well-constructed thesis statement and supports it with evidence effectively, creatively, and logically.
- Breadth and Depth: The paper demonstrates the breadth of knowledge of the topic, the grasp of secondary literature, and an intellectual rigor.
- Insight and Analysis: The paper demonstrates independent thoughts and keen analytical insights, as well as original interpretations based on reading and analysis.
- Writing: The paper shows utmost sensitivity toward logical organization, literary effectiveness, effective paragraphing, transitions, clear sentence development, spelling, grammar, and documentation.

Tentative Schedule

Week 1: Stepping into the Black Radical Imagination

- Introducing the Course
- Robin D. G. Kelley, “‘When History Sleeps’: A Beginning,” *Freedom Dreams* in the Course Packet.

Week 2: Plotting a Revolt in Modern Thought, Part I

- Aimé Césaire, *Discourse on Colonialism*, 29-78.
- “An Interview with Aimé Césaire,” in *Discourse on Colonialism*, 79-94.
- Robin D. G. Kelley, “A Poetics of Anticolonialism,” in *Discourse on Colonialism*, 7-28.

Week 3: Plotting a Revolt in Modern Thought, Part II

- Nikhil Pal Singh, *Black Is a Country*, 1-14.
- Martin Luther King, Jr., “Beyond Vietnam”
- Robin D. G. Kelley, “‘But a Local Phase of a World Problem’: Black History’s Global Vision, 1883-1950,” *Journal of American History* 86:3 (December 1997) in the Course Packet.

Week 4: Beyond American Universalism

- Nikhil Pal Singh, *Black Is a Country*, 15-100.

Week 5: Gender, Sexuality, and W. E. B. Du Bois’s Internationalism

- Alys Eve Weinbaum, “Interracial Romance and Black Internationalism,” in Susan Gillman and Alys Eve Weinbaum, ed., *Next to the Color Line: Gender, Sexuality, and W. E. B. Du Bois* (University of Minnesota Press) in the Course Packet.
- Claudia Tate, “Race and Desire: *Dark Princess: A Romance*,” in Susan Gillman and Alys Eve Weinbaum, ed., *Next to the Color Line: Gender, Sexuality, and W. E. B. Du Bois* (University of Minnesota Press) in the Course Packet.
- Roderick A. Ferguson, “‘W. E. B. Du Bois’: Biography of a Discourse,” in Susan Gillman and Alys Eve Weinbaum, ed., *Next to the Color Line: Gender, Sexuality, and W. E. B. Du Bois* (University of Minnesota Press) in the Course Packet.

Week 6: Afro-Asian Collaboration

- Brent Hayes Edwards, “The Shadow of Shadows,” *positions* 11:1 (2003) in the Course Packet.

- Gerald Horne, “The Asiatic Black Man?” *Race War!: White Supremacy and the Japanese Attack on the British Empire* (New York: New York University Press) in the Course Packet.

Week 7: Unearthing the Politics of the African Diaspora

- Read Penny M. Von Eschen, *Race Against Empire*, 1-21.
- Film – The Black Press: Soldiers without Swords
- Library Research: Exploring the African American Presses

Week 8: Black Americans and Anticolonialism

- Nikhil Pal Singh, *Black Is a Country*, 101-133.
- Penny M. Von Eschen, *Race Against Empire*, 22-95.

—Spring Break (No class on 3/18 & 3/20)—

Week 9: The Cold War and the Problem of Empire

- Penny M. Von Eschen, *Race Against Empire*, 96-144.
- Nikhil Pal Singh, *Black Is a Country*, 134-173.

Week 10: Rethinking Pan-Africanism, Part I

- Penny M. Von Eschen, *Race Against Empire*, 145-189.
- Kevin K. Gaines, *American Africans in Ghana*, 1-26.

Week 11: The Global Culture of Black Modernity

- Kevin K. Gaines, *American Africans in Ghana*, 27-76.

Week 12: The Politics of Black Expatriates in Ghana

- Kevin K. Gaines, *American Africans in Ghana*, 110-178.

Week 13: “Decolonizing America”

- Nikhil Pal Singh, *Black Is a Country*, 174-224.
- Kevin K. Gaines, *American Africans in Ghana*, 179-209.

Week 14: Reconnecting with Africa Anew

- Kevin K. Gaines, *American Africans in Ghana*, 210-286.

Week 15: Search for New Political Possibilities

- Michelle D. Commander, "Ghana at Fifty: Moving Toward Kwame Nkrumah's Pan-African Dream," *American Quarterly* 59:2 (June 2007): 421-441.
- Martha Biondi, "The Rise of the Reparations Movement," *Radical History Review* 87 (Fall 2003): 5-18.

入 会 者

牧野 理英 氏

日本大学商学部(英語科専任講師)

私はアジア系アメリカ文学、ポストコロニアル文学が専門です。博士論文は、アジア系アメリカ作家、Kare Tei Yamashita、Lois-Ann Yamanaka、Jessica Hagedornの作品におけるマスキュリニティ(男性性)の表象に関するものですが、現在はToni Morrisonでも論文を書いております。よろしくお願いいたします。

訃報

梅村 成浩 氏

長年にわたり会員であった梅村成浩氏が、4月20日に亡くなりました。ご逝去を悼みます。

編集後記

アメリカ大統領選に関する報道が連日紙面を賑わし、また、アフリカ開発会議が横浜で開催されるなど、会員の皆さまにとって語ることの尽きない数ヶ月です。この時期に会報編集を担当させていただくのは、やや緊張しました。須田先生の大統領選にまつわる記事のほか、追悼記事でありますことは非常に残念ですが、黒人研究の会に貢献された梅村成浩さんの業績を知ることのできる小林先生の記事、また大西先生の授業シラバスなど、全国大会で配布するに相応しい厚みの会報となりました。

今回の大統領選以後、アメリカがどのように変化していくのか、目が話せない一方で、手元の雑誌「クーリエ・ジャポン」には、パリの郊外に出現した、アフリカからの移民や不法滞在の若者たちによるラップ文化にまつわる記事(5月号)、また、ガーナを中心に少年たちを過酷な環境で「サッカー少年」に育て、悪質ブローカーの手によってサッカーの盛んなヨーロッパへ送り込むという、「新しい奴隷貿易」に関する記事(6月号)などが載っており、ブラック・スタディーの必要性を改めて感じさせられる昨今です。タイムリーな時事問題に関する会員の皆さまの声を、会報の存在によって残していけたらと思います。今後も多くの投稿をお待ちしています。

＜編集＞ 黒人研究の会・編集部
〒603-8143 京都市北区小山上総町
大谷大学文学部・古川哲史研究室気付

＜編集者＞ 時里祐子

(時里

祐子)